

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.53

2016/03

社史に掲載されている座談会といっ
どんなイメージが浮かびますか。社長を中
心に役員らが会社の思い出話をする。しか
も自慢話：、などでしょうか。他社の社史
であれば「あまり読む気がしない」かもし
れませんか。

座談会にも、いろいろなバージョンがあ
ります。社長と中堅社員、社長とOBとい
う組み合わせも、よく見られます。中堅社
員だけ、若手社員だけを集めた座談会もあ
ります。最近の若手社員は離職率が高いと
聞きますが、社史は後世に残るものなの
で、離職したら気まずいかも、なんて心配
もできそうです。

社外の方を交えた座談会としては、取引
先のほか、芸能人・有識者、地元の自治体
の首長らとの対談が掲載されているもの
もあります。

今号では、社史の座談会にスポットを当
てて、特色ある座談会をいくつか紹介して
みましょう。

○

当館の「社史ができるまで講演会」でも
取り上げた、住友重機械工業『プラスチッ
ク機械事業部50年史』（2015年刊行）
には、いくつかの特徴的な対談が出ていま
す。たとえば「もの申す鼎談」というコー
ナーでは、香港で1993年に設立した

現地法人のあゆみを、生え抜き社員3名
が語る内容です。社史（厳密には事業部
史）に掲載する内容にしてはけっこう辛
口なコメントもあり、「パーツに関しても
日本側のレスポンスは遅いと感じる。対
応する人が未経験の若い人の場合もあつ
たりして」や「リスクを最小限にしよう
として、既定の流れに沿って仕事をする
ことを重視しているから」などの発言も
もちろん、全体としては愛社精神にあふ
れた対談です。ほかに、台湾やドイツで
の座談会も収録されています。

同書には、入社2・3年目の若手社員
が50年後を語る「未来へのまなざし」
という座談会も掲載されています。「車は
ぜひ浮いてほしいね」「浮くとなる
と、軽くするためにプラスチックは多用
されるな」などのやりとりが、スマホの
SMS風のデザインで記されています。

（裏面につづく）

座談会を読んでみよう

(表面から続く)

帽子メーカーの『中央帽子60年』(2008年刊)は対談集ともいえる一冊です。第1章「会社とともに―この十年」として「作る」「動かす」「生み出す」「企てる」「打つ」のテーマで、それぞれに関わる社員が座談会を行っています。最後の「打つ」は「ゴルフを打つ」だそうで、「なぜ、今度の本の中で、テーマがゴルフなのか」と選ばれた二人の社員も戸惑っている様子。ゴルフ談義を続けたあと、最後には、仕事にも余裕が大切であり「そういう目的で我々にゴルフ談義をせよということだったのかな(笑)」と結んでいます。

第2章「社会とともに―この十年」は、社外の関係者を交えて「流通」「ファッション」「経営」を取り上げています。「経営」は帽子業界の他社の社長を集めた座談会です。中央帽子の西井社長の最初の発言から部分的に抜粋すると「今回のこの本は、中央帽子の六十周年という意味以上に、何十年後かに残った時に、読んだ人にとって資料として意義のあるものにしたと思います。」「将来どんな方が帽子業界を研究されるかはわかりませんが、(中略)、帽子業界の歴史の何らかのマイルストーンのような意義を持たせたい、と思っています。」「普通の社史なら考えにくいような組み合わせでこの場を設定させていただき、お集まりいただきました。」と切り出しています。

プラスチック成型などを行う矢崎化工の『60 YEARS BOOK』(2013年刊行)には、「二代目社員座談会」として親子で同社に勤めることになった4名の座談会が載って

います。子供のころ社内行事に参加した思い出や、製品が身近にあったエピソードなど、アットホームな社風が伝わってくるようでした。

九州を中心に医薬品卸業を展開する『フォレストグループ135年史 みらい創生史』(2014年刊)には、社長と副社長の対談が載せられていて「社史編纂の意義」が最初のテーマになっています。内容的には際立ってユニークということではないのですが、座談会の様子が部分的に付録のDVDの映像にも使用されていて、めずらしい試みだと思いました。

鋼製のワイヤーなどを製造する『東京製綱125年史』(2015年刊)は、第一篇「通史」のあとが、第二篇「座談会」で、かなりのページを割いています。冒頭「本誌の構成について」から引用すると「経営全般、技術、エンジニアリング事業の三つのセッションを設けました。通史を補うというより、時代の息吹きを伝えるという意味では、この社史の中で最も核心的な地位を占めるものと思います。」とあります。「技術のザ・ベスト・テン」と題して、あらかじめ投票で10の技術を選び、それぞれを取り上げていくなど進行も工夫されています。欄外に注記や、図・写真を入れるなど、伝えることに力を入れていることがよくわかります。

意外と奥が深い社史の座談会、本編には記されなかった社員の声が聞こえるように感じました。

(科学情報課・高田)

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4 電話：044-233-4537

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>